

令和5年12月1日

12月に入りました。今年もあと1か月ですね。今年を振り返ると、しんどい事もチョコチョコあったわけですが、要所で野球のイベント事に助けられた気がします。

春はWBC、夏は甲子園、そして秋は日本シリーズ。本当に、ここぞという時に心の支えとなっていただきました。感謝致します。そういう意味では、私個人にとっての「今年の漢字」を挙げるとすれば、野球の「球」となりますね。

本当は、「今年の漢字」となれば、この前から“伝えるから伝わるへ”、と言っているわけですから、伝わるの「伝」を挙げたいところなのですが、これについては来年にお預けしたいと思います。

いやあしかし、この“伝えるから伝わるへ”という言葉をついいろいろな所で主業員の方が口に出していただいているのを耳にします。その度に嬉しく感じています。言葉を口に出すと、頭に残る、記憶に残る、そして意識に残るんですよ。

思えば、かつて会長が通関士試験の勉強をされていた頃、牛乳パックをつなぎ合わせて、その筒を通して、自分の口から発した言葉が自分の耳に直接届く装置を工作して、利用されてました。自分が口に出した言葉を直接自分の耳で聞くことで記憶が定着しやすくなるということで、有効だったようです。

指差呼称もそうですよね。ただ単に指で言葉や物を指すだけでは効果は半減します。やはりその言葉や物を口に出しながら指で指すことで、意識に残るからこそ確認行為として有効なんですよ。

だからこそ、主業員の方が「伝わる」という言葉を口に出していただいているのはすごく嬉しく感じるわけです。来年も引き続き、口に出していただければと思います。

以上

代表取締役社長 角高哲治